

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.15
平成25年11月15日

みんなで つくろう 心に残る感動の物語

いよいよ学習発表会が17日（日）に迫ってきました。各学年とも練習に熱が入り、教師も児童も一生懸命です。14日（木）の校内発表会では、どの学年の児童も、心をひとつに気持ちを込めて、大きな声で演技・合唱ができました。

なかには、感動のあまり涙を流して、職員室へ戻ってくる先生もいました。それだけ、子どもたち一人一人が登場人物になりきり、感情移入をしながら表現できていたのではないかと思います。そして、同時に見ている側も、物語の世界に自然に引き込まれ、自己投影のような形で、主人公や登場人物になった気分で見入ってしまったのではないかと思います。

全校合唱も感動的でした。400人の歌声とは思えないくらいの声量が体育館中に響き渡りました。「1000人の声、以上ですね!」と広報誌「こあか」の写真撮影に来てくれたPTA広報委員の方も褒めてくださいました。

学習発表会当日は、ご参観の皆様に残る感動をきつとお届けできると思います。ご期待ください。

全校朝礼の話より（11／11）

足は、第2の心臓

さて、今日は「第2の心臓」のお話をします。

みなさんは、どこに心臓がありますか？そうですね、ここ（胸部）にありますね。

では、もう一つの心臓、「第2の心臓」といわれているところがあります。どこでしょうか？「頭」「お腹」「足」の3つのうちどこでしょうか？答は、「足」です。

心臓から出た血液は、栄養を運んで体中に行き渡り、また心臓に戻ってきます。私たち人間の血管は、小さな血管（毛細血管）も含めて全部つなぎ合わせると、なんと地球を2周半してしまいます。そんなに長い血管に、心臓は血液を送り出しているのです。足の先の方まで行った血液は戻るのが大変ですね。

足（下半身）には、全身の筋肉の3分の2が集まっています。歩いたり、走ったりして、足を動かすと、全身の筋肉の3分の2以上を同時に動かすことになり、足が心臓のようにポンプの役目を果たし、血液が体中をめぐりやすくなるのです。

そのため、足は「第2の心臓」と呼ばれているのです。

みなさん、「ふくらはぎ」を少し押ししてみましょう。どうですか？ポンプのような筋肉がありますね。

人間は、足で歩くことによって「人間」となったといわれています。大昔、人間が足だけで歩くようになると、それまで体重を支えていた手は、足とは違う発達をしました。それと同時に脳が発達し、手が複雑な物を作り始め、足も大きく強くなってきたのです。こうして、脳も重くなりたくさんのことを考えられるようになりました。まさに足は、脳を鍛えてきたというわけです。脳は、足とともに進歩しました。

スポーツマンでどんなにふくらはぎの筋肉をきたえている人でも、長時間足を動かさないでいると、足の第2の心臓のポンプは動きにくくなります。当然、足（下半身）に血液がたまりやすくなってしまいます。校長先生も、4月に入院しているとき、10日間ほど寝たきりの状態が続くと、体を動かせるようになって、歩くのは慣れるまで大変でした。

みなさん、これからも体をどんどん動かして、足を動かし、第2の心臓をどんどん活躍させてください。今、学習発表会に向けて歌ったり、踊ったりしています。みなさんの第2の心臓がたくさん動きそうです。